

分科会等名 : 家政学分科会

1	所属委員会名 (複数の場合は、主体となる委員会に○印を付ける。)	健康・生活科学委員会
2	委員の構成	20名以内の会員又は連携会員
3	設置目的	<p>家政学は、人間生活における人と環境との相互作用について、人的・物的両面から研究し、生活の質の向上と人類の福祉に貢献する実践的総合科学である。関連する人文・自然科学の研究分野や社会の諸問題を、生活する人間側からの視点を基にしたアプローチにより統合的に捉える学問であり、このような方向性は、他の学術分野のアプローチと補完し合いながら、現代の変化に富む社会のニーズに対応するものである。人の暮らしや生き方に関連する今日的課題を総合的に検討し、全ての人が健康で生き甲斐を持って人生を全うするための方策を生活者視点に立って提案するために、本分科会を設置する。</p> <p>(名称変更理由)</p> <p>家政学は、「人と人」「人と物」「物と物」の関係について、人の暮らしの立場から研究を行う学問分野である。しかし、家政学の名称について、「料理・裁縫」と言った狭いテクニックを対象としたものであるとの間違った印象があることを払拭するために、20年前に生活科学への名称変更の議論があり、多くの学部が名称を変更した。また、それ以後、家政学=生活科学と言った使われ方もしてきた。しかし、20年が経過した現在も「生活科学」の学問分野としての定義は曖昧で、むしろ拡散し漠としたものとなっており、社会的な認知度も低い。これは、人間の生活に近接した学問分野（工学、農学、医学、社会学、心理学等）の研究の一部が、生産や社会政策の立場から経済的効果や効率、簡便性等の追求の視点で行われたものや、単なる学問的興味のみで行われたにも係わらず、「生活科学」の名称を冠したり、研究の場を生活科学の学部に求めたことによるものであると考えられる。</p> <p>また、文部科学省においては、学問分野として家政学の名称を使用している。本分科会での活動は、近接学問分野の成果を統合しながらも、「人の暮らし」に視座を置くものであることを明確化するために、今回名称を変更したいと考えた。</p>
4	審議事項	近接学問分野の成果を統合しながらも「人と人」「人と物」「物と物」の関係について、人の暮らしの立場から研究を行うという設置目的実現のために必要な活動に対する連携・協力、及び教育の発展に係る審議に関する事
5	設置期間	年 月 日～ 年 月 日 / <input checked="" type="checkbox"/> 常設
6	備考	

